

# I 野菜の概況

## 1 野菜の需給動向

野菜の1人1年当たりの消費量（供給純食料）は近年減少傾向で推移し、平成21年度（概算）は91.7kgと、前年度の93.6kgと比べ1.9kg減少した。

これに対し、野菜の生産量は、前年度は1,255万トンであったが、平成21年度（概算）は1,249万トンと6万トン減少した。

一方、平成21年度の野菜の輸入量は246万トン（生鮮換算ベース）で、食の安全性志向の高まりを背景とした国産品へのシフト等の影響もあって、前年度比87.8%と大幅に減少した。

こうした結果、平成21年度の野菜の自給率（概算）は、前年度から1ポイント上昇して82%となった（表1）。

表1 野菜の需給動向

(1) 平成20年度（概算値）

人口127,692千人（平成20年10月1日現在）

（単位：断りなき限り1,000トン）

類別・品目別	国内		外国貿易		在庫の増減量	国内消費仕向量	国内消費仕向量の内訳						
	生産量	輸入量	輸出入量	増減量			仕向量	飼料用加工用種子用	減耗量	粗食料		純食料	供給数量
										総数	1人1年当たり		
野菜	12,654	2,810	13	0	15,451	0	1,567	13,884	108.7	12,026	94.2		
a. 緑黄色野菜	2,754	1,353	3	0	4,104	0	391	3,713	29.1	3,472	26.8		
b. その他の野菜	9,900	1,457	10	0	11,317	0	1,176	10,171	79.7	8,599	67.3		
野菜	12,654	2,810	13	0	15,451	0	1,567	13,844	108.7	12,026	94.2		
1. 果菜類	3,479	1,430	2	0	4,907	0	483	4,424	34.6	3,670	28.7		
うち果実的野菜	817	67	0	0	881	0	107	777	6.1	532	4.2		
2. 葉茎菜類	6,058	730	4	0	6,784	0	844	5,940	46.5	5,209	40.8		
3. 根菜類	3,117	650	7	0	3,760	0	240	3,520	27.6	3,147	24.6		

資料：農林水産省「食料需給表」

(2) 平成19年度（確定値）

人口127,771千人（平成19年10月1日現在）

（単位：断りなき限り1,000トン）

類別・品目別	国内		外国貿易		在庫の増減量	国内消費仕向量	国内消費仕向量の内訳						
	生産量	輸入量	輸出入量	増減量			仕向量	飼料用加工用種子用	減耗量	粗食料		純食料	供給数量
										総数	1人1年当たり		
野菜	12,527	2,992	14	0	15,505	0	1,572	13,933	109.0	12,069	94.5		
a. 緑黄色野菜	2,748	1,406	4	0	4,150	0	394	3,756	29.4	3,475	27.2		
b. その他の野菜	9,779	1,586	10	0	11,355	0	1,178	10,177	79.7	8,594	67.3		
野菜	12,527	2,992	14	0	15,505	0	1,572	13,933	109.0	12,069	94.5		
1. 果菜類	3,481	1,455	2	0	4,934	0	486	4,438	34.8	3,692	28.9		
うち果実的野菜	834	64	0	0	898	0	107	791	6.2	637	4.2		
2. 葉茎菜類	5,955	839	6	0	6,788	0	844	5,944	46.5	5,206	40.7		
3. 根菜類	3,091	698	6	0	3,783	0	242	3,541	27.7	3,171	24.8		

資料：農林水産省「食料需給表」

(3) 食料自給率

	昭和40年度	50	60	平成7年度	14	15	16	17	18	19	20（概算）
供給熱量ベースの総	73	54	53	43	40	40	40	40	39	40	41
野菜	100	99	95	85	83	82	80	79	79	81	82

資料：農林水産省「食料需給表」

## 2 野菜の価格動向

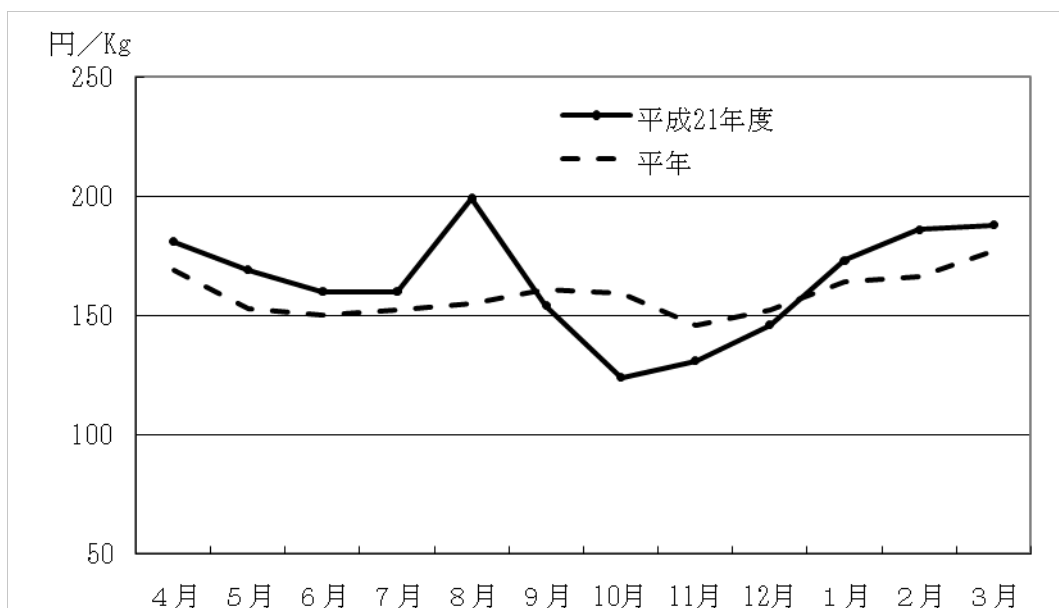
平成 21 年産の春野菜の価格は、4 月には低温の影響があったものの、5、6 月の天候の回復に伴い入荷量が増加し、その後は平年並みに推移した。

夏秋野菜の価格については、北日本を中心に梅雨前線の停滞に伴う長雨、日照不足、低温など天候不良の影響により、8 月に土物などの入荷量が平年を下回り高騰した。盆以降は天候の回復に伴い入荷量は平年を上回り、価格は平年を下回って推移した。また、はくさいの価格は、夏場の加工需要が低迷し平年を大きく下回ったことから、緊急需給調整が行われた。

秋冬野菜の価格は、10 月以降天候不順の影響で入荷量が減少して上昇に転じ、12 月以降は平年を上回って推移した。

また、年明け以降の価格は、寒波による低温の影響で生育状況が芳しくなく、入荷量が減少したことから、平年を上回って推移した。(図 1)。

図 1 指定野菜 (14 品目) の卸売価格の動向 (東京都中央卸売市場)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成 21 年度	181	169	160	160	199	154	124	131	146	173	186	188
平年	169	153	150	152	155	161	159	146	152	164	166	

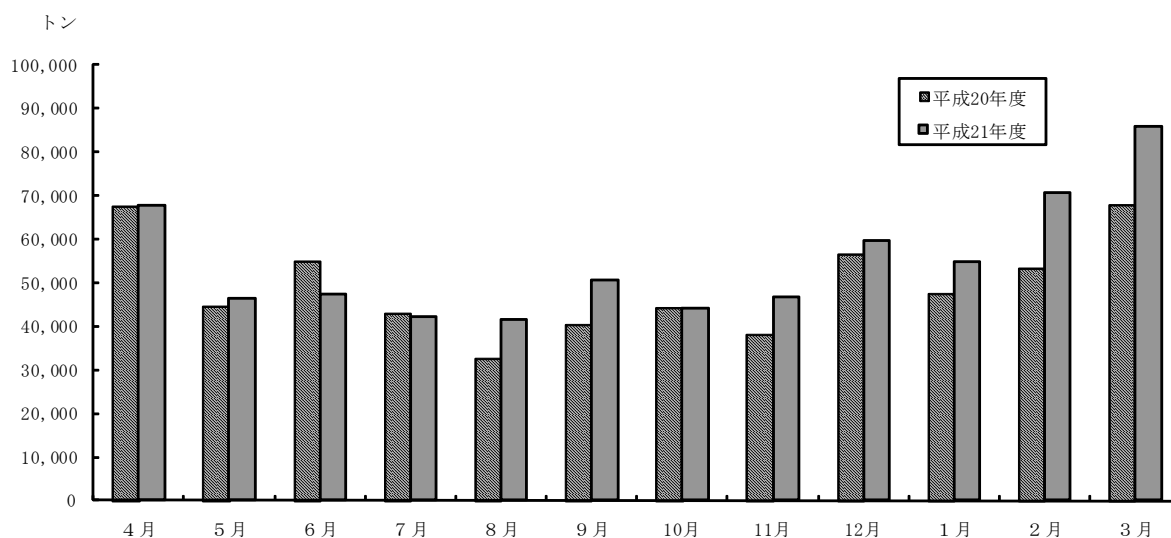
資料：東京青果物情報センター「東京都中央卸売市場における野菜の市場別入荷数量及び価格」

注：平年とは、過去 5 カ年（平成 16 年度～20 年度）の月別価格の平均値である。

### 3 野菜の輸入動向

平成21年度の野菜の輸入量は、天候不順による国内価格の高騰により、たまねぎを中心に夏以降増加し、前年比101.0%の225万トンとなった。このうち生鮮野菜は、前年比111.6%の65万8千トンとなった（図2）。

図2 生鮮野菜の月別輸入量の推移（平成20年度及び平成21年度）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成20年度	67,380	44,510	54,969	42,894	32,435	40,198	44,218	38,044	56,629	47,363	53,307	67,770	589,717
平成21年度	67,893	46,491	47,469	42,330	41,541	50,511	44,059	46,704	59,833	54,719	70,712	85,799	658,061
対前年比													111.6%

資料：財務省「貿易統計」